

登下校の安全確保に向けた学校安全サポーターとの協力体制づくり  
揖斐川町立大和小学校

本校では、多くの地域の皆さまが学校安全サポーターとして、子どもたちの登下校の見守りにご協力いただいています。

雨の日も、暑い日も、毎日、交通量の多い場所に立って、一緒に歩いて安全を確認してくださるおかげで、大きな事故なく登下校することができています。

1 挨拶を通じた地域とのつながり

学校安全サポーターの皆さまへ、直接感謝の気持ちを伝えたいという子どもたちの思いから、年度始めの「顔合わせ会」と年度終わりの「感謝の会」を行っています。

SNSの普及やタブレット端末を活用した学習が進む一方で、人と人とのつながりは、相手の顔を見て交わす「挨拶」から始まります。年度始めの生活目標に「気持ちのよい挨拶」を掲げ、全校で取り組んできました。

顔合わせ会では、学校安全サポーターの代表の方から、「朝起きたら、まず、家族に挨拶を。そして、私たち



とも挨拶でつながっていきましよう。」という温かいお話をいただきました。子どもたちは耳を傾けながら、地域の皆さまとのつながりを大切にし、挨拶を通して安全・安心な地域をみんなで作りたいというところを確かめ合うことができました。

2 地域で子どもの安全を守る取組

今年度は、揖斐川町の通学路交通安全プログラムに基づき、通学路の点検を実施しました。学校運営協議会とPTAを中心に、学校安全サポーターの皆さまにもご協力いただき、各所を確認しました。その結果、見通しの悪いカーブや交差点、転落の危険がある用水路等、子どもに寄り添った目線だからこそ気付くことのできる危険箇所が数多く明らかになり、環境整備につなげることができました。

また、クマの目撃情報が急増し、子どもたちの安全確保が大きな課題となりました。保護者、地域、学校がクマの目撃情報を速やかに共有し、登下校時の送迎や見守り活動にご協力をいただきました。地域の皆さまのご協力によって、子どもたちの安全だけでなく、不安の軽減にもつながっています。

学校安全サポーターとして登録されていないくても、時間を見つけて登下校を見守ってくださっている保護者や地域の皆さまも多くいらっしゃいます。皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。

新たなふるさと学習の試み  
福井県池田小との体験交流活動  
揖斐川町立北方小学校

2023年に、隣接する福井県池田町につながる冠山峠道路が開通しました。北陸の美しい海に向かう人、美濃の観光地巡りに訪れる人。近くて遠かった隣県がクラウンロードで往来が容易になり、より身近になりました。こうしたことを背景に、2つのまちの小学校間で交流を計画し、7月7日の七夕の日に福井県池田小6年生と本校6年生が、徳山湖、徳山ダムで初めての活動を行いました。

1 出会いと交流、そして学び合い

会に先立ち、6月19日には両校児童によるオンライン学習会を実施しました。本校児童が揖斐川町の魅力についてプレゼンテーション説明を行いました。一人一人が身近な地域にもまだまだ知らない魅力がたくさんあることに気付かされました。

現地では、徳山湖上ボート体験、徳山会館での昼食、徳山ダム内部を見学しました。当初は互いに硬さも見られましたが、声を合わせてボートを漕ぐうちに次第に表情も和ら



ぎ、笑顔が増えていくのがはつきりと分かりました。

また、ダムの壮大さとダム湖に沈んだ旧徳山村に思いを馳せるよい機会ともなりました。隣県の仲間と交わり、ふるさととの歴史や人々の思いに触れ、考えを深めることができたことは、これからの社会をつくる子どもたちにとって貴重な財産となったに違いありません。

2 ふるさと交流がもたらす価値

県境のまち、揖斐川町は、他県の文化や生活に触れる機会に恵まれています。が、ややもすると私たちの意識は南の地域に向きがちです。しかし、このふるさと交流活動は、北には日本海、西には琵琶湖へと続く地域があり、そこに息づく生活があることを再認識することができそうです。社会のグローバル化が進む中、若い力ならではのより広い視野からの交流によって、新しい社会を創ってくれることを願っています。

秋には福井県池田町での再会となります。池田町には水海(みづうみ)の田楽能舞等の伝統文化に加え、ウツドスボーツやゲッター選手権といった豊かな森林環境を活かした独自のユニークな取組も行われています。双方の子どもたちが互いの地域のよさを実感し、よりよい未来への確かな一歩を踏み出してくれるものと期待しています。



# みんなで考えよう! これからの学校教育の在り方。

## 「学校教育の在り方審議会・シンポジウムinいびがわ」(1) 「まちの未来をひらく子どもたちが育つ学校をみんなで創る」

学校教育の在り方審議会では、「まちの未来をひらく子どもたちが育つ学校をみんなで創る」をテーマに町民の皆さんと意見を交わすため、シンポジウムを開催しました。当日は、中村有希氏(文部科学省大臣官房企画官)の基調講話に続いて、審議会拡大委員(高校生を含む)による協議、来場者との意見交流を行いました。

会場には、町内外から約300名の皆さんが参加され、これからの学校に求められる教育内容、学校統合の必要性、その具体等について話し合いました。今回は、高校生と中村氏との意見交換を中心にシンポジウムの一部を紹介します。



**Q1** 高校進学後に気付いた、これからの揖斐川町の小中学校の教育に必要なものは何ですか。

・高校の授業は進度(学習の進み方)が速く、専門性も高いので、自分から学んでいく姿勢が必要になると感じました。そのため、小中学校でも自ら学ぶという習慣を身に付けること

が大切になると思います。

・高校に入ってから、自分で時間の使い方や行動を考えることが増え、自由が増えた分、自分で自分の行動に責任を持つことが大切だと感じるようになりました。ですから、揖斐川町の小中学校でも、自分たちでやりたいことを考えて実際に行動するような学習や活動が増えると思うます。

・私は高校に進学して、さまざまな考え方に触れることができるようになりました。それによって交友関係が広がるだけではなく、勉強等、自分が成長していく上で新たな視点の一つになるということを実感しました。さまざまな考え方や視点に触れることができる仲間が存在は、小中学校でも中学校でも大切であるとあらためて感じています。

・高校進学後に経験したことの一つに、一緒に生活していく仲間が増えたこととあり、少し驚く場面が多かったと感じています。小中学校の時からやはりもう少し規模の大きな集団で生活していくことに慣れることも大切だと思います。人数が多いと新しい視点を知ったり、世界はもっと広いということを感じたりすることが多いという面では学校統合に肯定的な気持ちでいます。

〔中村氏〕 こういう場で緊張されたと思いますが、いきなり話を振られて堂々と話ができるという時点で、本当に皆さんすごいと思います。おそらくフロアの皆さんも感じていらつしやると思いますが、4人ともしつかりした意見を話してもらったことができました。

高校生の皆さんからの話によれば、一つは、自分から進んで学ぶ姿勢や、自分たちで考えて行動するということが重要であること、もう一つは、さまざまな人と触れ合ってさまざまな視点に触れる、さまざまな人と出会うということが大事なことかと思っています。

**Q2** 様々な人と話したことで、楽しいと思ったり、違いを感じたりしたことはありましたか。

・確かに中学校まではクラスの仲間たちが変わらなかつたので、高校に進学して新たな仲間と出会って新しい視点や考え方を吸収し、自分なりの視野が生まれたり、考え方が広がったりしたことはとても楽しいことでした。

・高校に進学してから、中学校まで自分がどれだけ狭い視野で生きていたかを実感する場面が多くありました。高校に進学してからさまざまな人と関わる機会をもらえたので、考え方や物事の見方などが増えたのが楽しいと思います。

〔中村氏〕 高校生の皆さんの話にあつた教育環境については、小中学校まではなくとも高校に進学してからあればよい、と考えるのは違うと思います。もちろんその割合は違うかもしれませんが、やはり小中学校のうちからさまざまな人と触れ合っ

て考え方を交流するということはとても大事なことでと思います。今言われているような思考力や判断力、表現力というものは受け身で身に付くものではないので、小中学校でもできる方法を工夫してやっていく必要があるのではないかと思います。



〔秋山委員長〕 次回の審議会では、今後の学校の在り方の議論についてより踏み込んでいく必要があります。特に子どもたちが自分の幸せをどのようにつかんでいくかというプロセスに対して私たちがどういう環境をつくることができるかという点で、ここまですごい言いただいたことは核になるところです。なので、そこはやはり目を離さないようにしなければいけないということを感じました。

(学校教育の在り方審議会HP)

